

# 死刑存置派の研究者が語る 死刑研究の最前線

「死刑」は、私たち市民には直接関係がないと思われがちですが、実は非常に身近な制度なのです。裁判員裁判制度が始まり、職業裁判官だけではなく市民が直接死刑判決に関わるようになりました。この機会にまずは死刑制度の実態を知って、そして「死刑」について考えてみましょう。



■講師 永田憲史氏 関西大学法学部教授

<プロフィール>

1976年、三重県生まれ。  
1995年、京都大学法学部に入学。  
1998年、司法試験合格。

講演内容はウラ面記載

日時

2016年11月3日(祝) 14時開演(13時半開場)

場所

東京しごとセンター講堂(飯田橋)



東京都千代田区飯田橋3丁目10番3号  
TEL. 03-5211-1571

- 飯田橋駅から  
JR中央・総武線「東口」より徒歩7分  
都営地下鉄大江戸線・東京メトロ有楽町線・南北線  
「A2出口」より徒歩7分  
東京メトロ東西線「A5出口」より徒歩3分
- 水道橋駅から  
JR中央・総武線「西口」より徒歩5分
- 九段下駅から  
東京メトロ東西線「7番出口」より徒歩8分  
東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄新宿線「3番出口」より徒歩10分

入場料

無料 (資料代 ¥500) 事前申込不要

■主催

FORUM90 セミナー実行委員会

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-14-13 港合同法律事務所気付

■お問合せ

☎ 03-3585-2331

✉ info@forum90.net

## 講演内容

### ～ 死刑存置派による日本の死刑制度の研究

現在進行形で死刑執行が行われている日本の死刑制度の研究者のほとんどは死刑廃止論者です。

しかし、永田憲史教授は存置派でありながらも、執行方法や日本政府の死刑制度に関する情報公開について疑問を抱かれ、さまざまな公文書の情報公開を求めてその内容を分析し、死刑制度の実態を明らかにしてきました。

講演では、前半に2001年にフランスのストラスブールで開かれた欧州評議会が、「オブザーバー国における死刑廃止」を決議し、オブザーバー国であり、かつ死刑存置国であるアメリカと日本に対して執行の停止と廃止への段階的な措置をとることを求めたのに対して、慌てふためいた外務省はどう対応したのか、その時の外務省の文書から日本政府の公式発言では見えないものを明らかにしていただきます。

### ～ 日本の死刑執行の現実 「死刑執行始末書」

「死刑執行始末書」、この文書は、死刑執行終了後に作成される法務省のきわめて内部的なもので、私たちが情報公開を求め開示させた文書も、ほとんどが墨塗りでなにも読み取ることができません。ところが、永田教授は、GHQ（連合国軍総司令部）が日本を占領していた時に政府に報告させ、保管していた文書の中から「死刑執行始末書」を発見し、分析されました。占領期から70年近く経ったいまでも、死刑執行方法はまったく変わっていないので、この文書からいま現在の死刑執行の現実が見えてくるのです。後半では、この「死刑執行始末書」について講演していただきます。

## ■参考文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

### **GHQ 文書が語る日本の死刑執行 公文書から迫る絞首刑の実態**

永田憲史著 現代人文社 2013年5月 1,900円 + 税

法務省の徹底した秘密主義によって、死刑執行に関する情報にアクセスできない。このほど、占領下に、日本政府がGHQにあてた死刑執行に関する公文書(死刑執行起案書・始末書など)が発見された。その分析と原本(英文)・邦訳を収録し、死刑執行(絞首刑)の実態を明らかにする。

### **死刑選択基準の研究**

永田憲史著 関西大学出版部 2010年9月 2,800円 + 税

どのような事例で死刑が言い渡されるのか。本当に厳罰化したのか。永山事件以降の全死刑判決及び検察官上告事件を検討し、死刑と無期懲役の基準を明らかにする。合わせて犯行当時少年の被告人に対する基準を検討するとともに、光市事件判決を理論的に分析。死刑選択が争点となる裁判員裁判必携。巻末に死刑判決の資料掲載。

### **死刑と憲法 年報・死刑廃止 2016**

インパクト出版会 2016年10月 2,300円 + 税

永田憲史「死刑執行停止の検討を求めるストラスブール総領事の意見具申」掲載

### **死刑映画・乱反射**

京都にんじんの会編 インパクト出版会 2016年5月 1,000円 + 税

永田憲史「存廃を論じる前にまずは実態を知ろう 死刑の基準と絞首刑」掲載

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・